

①表示方法

商品コード、有効期限/使用期限、数量、ロットナンバーの順を基本とします。表示は一段表示を原則とし、一段表示が不可能な場合に限り二段表示とします。但し、1つのアプリケーション識別子とそのデータの途中から「段変え」することはできません。

②表示単位

- a. 外箱・中箱におけるバーコード表示を基本とする。
- b. 医療機関において個装（仕様単位）で発注する商品や医事請求の発生する商品については個装（使用単位）によるバーコード表示も検討する。

2) 要注意すべき例外的な表示

- ① 業界標準4項目の内、表示されない項目がある。
最低限、商品コードの表示順はあるが商品特性によっては他項目が存在しない場合があります。
- ② 業界標準4項目の表示順が違う場合がある
輸入品については業界のガイドラインに示された表示順で表示されない場合もあります。
- ③ 業界標準4項目以外のデータ項目が表示される場合がある
アプリケーション識別子にはいろいろなデータ項目を表示できる拡張性があるので業界標準4項目以外のデータ項目が表示される可能性があります。
特に輸入品については注意が必要です。

3) バーコード生成時の注意事項

① バーコード表示幅

読取の安定性からバーコードの長さは100mm（左右クワイエットゾーン含む）以内で作成することが望まれます。

又、最小エレメント幅（細バー幅）は0.167mm（ドット密度12本/mmのバーコードプリンタで2ドット）ですが、レーザープリンタを使用する場合は0.254mm以上で印字することを推奨します。

② バーコードの高さ

10mm以上を推奨します。

KOBAYASHI

GS1-128

基礎知識

Tool A-09

(旧呼称：UCC/EAN-128)

5. その他

- ・コンビニエンスストアでの各種料金払い込みに使用される「標準料金代理収納」において、かつては複数（3ないし4本）のJANコードが使われていたが、1段のGS1-128バーコードへ移行したなど身近な用途でも利用されています。



JANコード（4本）使用払込票

GS1 128使用払込票

- ・期限・ロット情報を必要とする食品トレーサビリティ分野でもGS1-128が活用されています（加工食品の原材料管理など）。

■ お問い合わせ先

小林クリエイト株式会社

自動認識 担当

E-mail : sales1@k-cr.jp

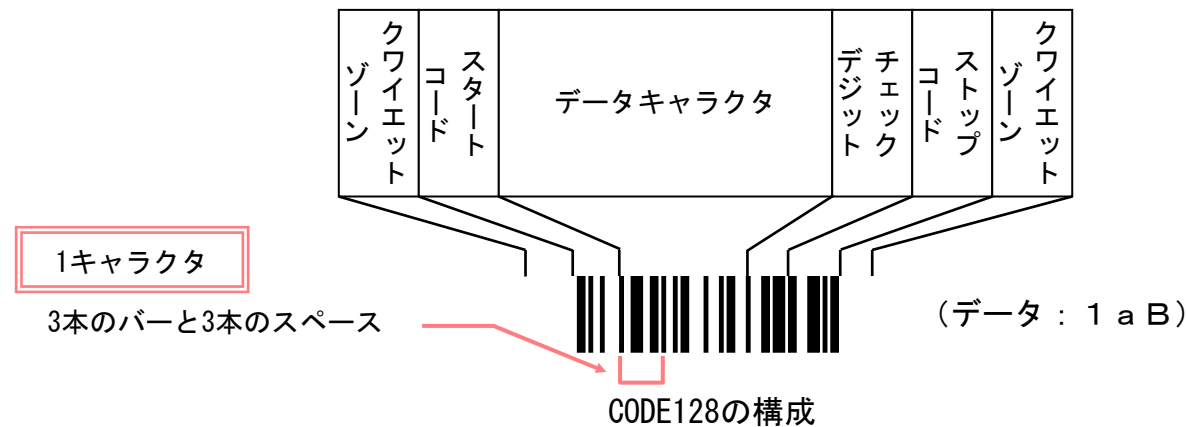
U R L : http://k-cr.jp/

1. 「CODE 128」と「GS1-128」

CODE128は1981年にコンピュータアイデンティックス社によって開発されたバーコードシンボル。GS1-128はCODE128のバーコード構造をベースにし、物流情報や商取引情報を表示するバーコードとしてGS1（制定当時は国際EAN協会）が制定しています。

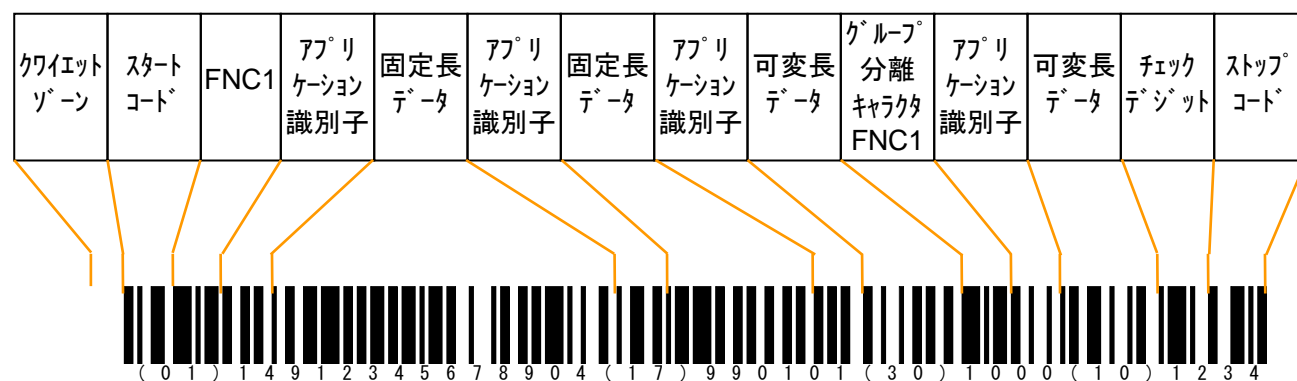
- CODE128 . . . シンボルとして印字したり、読み取ったりする場合の「技術規格」
- GS1-128 . . . アプリケーション識別子と商品関連データや企業間取引データを表示する場合の「応用規格」

2. 「CODE 128」の特徴



- 1キャラクタは太さが4種類に変化する3本のバーと3本のスペースの合計11モジュールから構成されます。
- スタートコードが3種類あり、1キャラクタでフルアスキーの128文字が表現できることからCODE128と呼ばれています。
尚、スタートコード“C”の場合は、1キャラクタで数字2桁を表しているため数字は極めて高い印字密度で表現できます。
尚、3種類あるコードキャラクタ（A、B、C）がシンボル内に表示されると、その直後のデータから指示されたコードキャラクタに基づいたデータ内容となります。
- シンボルはスタートコードで始まり、データキャラクタ、チェックデジット、ストップコードで終わります。尚、チェックデジット（モジュラス103使用）は目視読み取り文字に表示されず、かつリーダーからデータ出力されません。

3. GS1-128の特徴



- スタートコードの次に“FNC1”を配置することでこのシンボルがGS1-128であることを意味します。
- GS1-128ではデータの頭にアプリケーション識別子（AI：2～4桁）が付加され、識別子に続くデータが何の情報であるかを容易に認識できるようになっています。尚、識別子は目視で確認し易いようにカッコ等で囲みますが、バーコードデータにはカッコ等の文字はデータとして挿入しません。

- GS1-128では、アプリケーション識別子とそれに続くデータを1セットとし、複数のセットを連結する事ができます。
- 固定長データ（有効期限等）は次のアプリケーション識別子を見つけることができますが、可変長データ（数量等）は次の識別子を見つけることができません。そのため、可変長データの後に次のセットを連結する場合は、可変長データの後に区切り文字として“FNC1”を挿入します。但し、リーダーでは“FNC1”はグループ分離キャラクタとして[GS]（アスキーコード“29”）に変換して出力します。尚、可変長になっている場合でも最大桁数になっている場合やバーコードの最後のセットになっている場合は“FNC1”を挿入する必要はありません。

4. GS1-128の使用例（医療材料）

（財）流通システム開発センター流通コードセンター・日本医療機器関係協議会刊「医療資材商品コード・GS1-128バーコード標準化運用基準マニュアル」参考）



- 項目仕様
 - 表示項目とその仕様
以下の4項目を基本とします。

【表示項目の仕様】

| 表示項目 | 構成 | 桁数 | 内容 |
|--------------|-------------|----|---|
| 商品コード | | 16 | |
| | 識別子 | 2 | 識別子(AI)01をあてる |
| | 梱包インデイクタ | 1 | 個装(使用単位)、中箱、外箱などの梱包形態を示す。(注1) |
| | JANコード | 12 | 国コード(2桁)商品メーカーコード(5桁)商品アイテムコード(5桁)(チェックデジットを除くJANコード12桁)(注2) |
| | チェックデジット | 1 | 梱包インデイクタ1桁とJANコード12桁から算出されるチェックデジット(モジュラス10利用)JANコードのチェックデジットと異なる |
| 有効期限 / 使用期限 | | 8 | |
| | 識別子 | 2 | 識別子(AI)17をあてる |
| | 有効期限 / 使用期限 | 6 | YY年MM月DD日の年月日各2桁 表示日(DD)を00にすると、年月(YY/MM)の期限となる |
| 数量 | | 10 | |
| | 識別子 | 2 | 識別子(AI)30をあてる |
| | 数量 | 8 | 可変長のため各企業で異なる 最大8桁 |
| ロットナンバー (注3) | | 22 | |
| | 識別子 | 2 | 識別子(AI)10をあてる |
| | ロットナンバー | 20 | 可変長のため各企業で異なる 最大20桁 |

- (注1) “0”（単品の場合）と“9”（都度入り数が異なる場合）は特別な意味合いがあるが、“1”～“8”については表示する側で任意に設定する。設定として中箱を“1”外箱を“2”にする例がある。
- (注2) JANメーカーコードを2001年以降に新規申請すると、メーカーコードは国コードを含んで9桁が割り当てられる。その為、企業で割り当てる商品アイテムコードは3桁になる。
- (注3) 個装（使用単位）の数量は必ず「1」となるため、個装の場合は数量を省略することが可能。